

すべての学生に有意義な学生生活を 専任スタッフらが多方面からサポート

すべての学生が主体的に学び、有意義な学生生活を送れるよう、本学では学生相談室と障がい学生支援室を置いている。人間関係や学修、将来のこと、悩みや心配事など、専任スタッフや担当教員が一人一人に寄り添い、多方面からサポートする。

学生相談室

学生相談室は生田グリーンに併せている。学生生活インテック地下1階、神を送るなかで出合う田9号館2階にあり、専門のカウンセラーが相談

み、学修の取り組み方や履修の組み方、人間関係、1人暮らしやアルバイトでの困りごと、進路についてなど、進路も相談できる場所である。悩みの解決のため学内外の専門部署につながることもある。初回相談は電話または



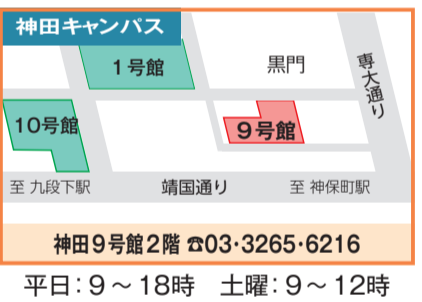
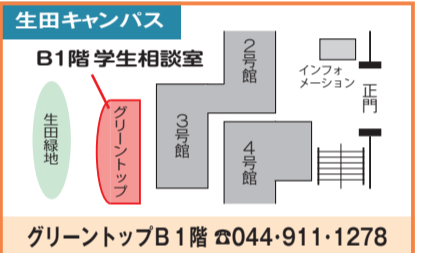
自由に活用できるフリースペース＝生田キャンパス



専門のカウンセラーが相談に応じる
＝神田キャンパス

【相談したい時】

対面相談は1回約50分。事前予約が必要。保護者からの相談にも対応している。



来室で予約をすることになるが、空きがあればその日の対応もできる。相談時間は1回50分。相談室は本人が納得できるまで何度でもカウンセラーと面談できる。光川利恵子に制限はなく、在学中

障がい学生支援室

本学は、障がいの有無によって分け隔てられることなく、人格と個性を相互に尊重しあいながら、教育・研究に参加できるような環境を整備し、機会の確保に努めている。また、学生スタッフであるピアサポーターと協力しながら、多彩な活動も展開している。ピアサポーターは対話

「助けて」と口に出せないこともあるだろう。しんどさに耐え続けることで自分の気持ちすら感じられなくなることもある。そして、精いっぱい助けを求めているのに気づかれず、周囲からは困っていないように捉えられてしまうこともある。だからこそ、私たち学生相談室、障がい学生支援室は生きるかなしみを抱えている皆さんとつながり、それを受けとめ続ける存在であるし、そうありたいとの矜持を持っている。

一人が主体的に決断できるようにサポートしていくので、困ったこと、迷うことがあればどんなことでも話してほしい」と呼びかける。両キャンパスとも、相談室の入り口をフリースペースとして開放している。休憩をしたり、昼食を食べたり、勉強をしたりと自由に使えるので、活用にほしい。また、さまざまなイベントも予定しており、in Campusなどでお知らせする。



学生相談室長 障がい学生支援室長

新美南吉氏に「でんでんむしのかなしみ」という作品がある。ある日、でんでんむしは背中の中から悲しみがいっぱい詰まっていることに気づき、「生きてられない」と友を訪ねる。会う友、会う

小峰 直史

友、誰もがかなしみを持っていることを知り、そのでんでんむしは嘆くのをやめるといふ粗筋である。

つながり続ける場としての相談室・支援室

私たちは心の奥底でかなしみを抱える存在。コロナの感染拡大と収束による青春時代の断続的な「喪失」は、これに拍車をかけているだろう。気になるデータがある。コロナ禍の2021年12月、日

その状態ならどうするかという設問には、半数以上が「誰にも相談しないでもう少し様子を見る」と答えている(国立成育医療研究センター「コロナ禍の2021年12月、日

もある。だからこそ、私たち学生相談室、障がい学生支援室は生きるかなしみを抱えている皆さんとつながり、それを受けとめ続ける存在であるし、そうありたいとの矜持を持っている。



食堂の優先席を整備するピアサポーターの学生たち＝1月

障がい学生支援室 相談受け付け・問い合わせ
【開室】月～金 9～17時
■ Email : sien@acc.senshu-u.ac.jp
■ 生田キャンパス 4号館1階 044-946-7001
■ 神田キャンパス 9号館1階学生生活課内 03-3265-6824



キャンパス・ハラスメントを未然に防ぐために

学生の頃、言語学の先生から「学問の分野によっては成果が兵器開発に流用されてしまうことがある。しかし、言語学の成果は人を傷つけることはない」といった趣旨の話を何度となく聞かれました。その言葉に背を押されて言語研究の道に進みましたが、国立国語研究所や文化庁国語課で国語施策に携わる中で、研究成果ではなく、研究対象である「ことば」が「凶器」となるという事例に向き合うことになりました。

本学での相談の中には、相手の立場に立って「ことば」を使っていれば防止できるとされる案件も多く見られます。残念ながら、ここでも「ことば」が「凶器」となった事例を目にすることになりました。

さて、本年1月に学長が発した「キャンパス・ハラスメント防止宣言」にあるとおり、当対策室は、キャンパス・ハラスメントが発生した場合、被害者の救済及び権利の回復等を図りつつ、加害者に対しては厳正に対処していきます。

そして、それ以上に注力すべきことは、キャンパス・ハラスメントの発生を未然に防ぐための啓発活動です。前任の内藤光博室長は、多様化するハラスメントについて、相談体制やハラスメント行為の防止に関するガイドラインの整備に尽力されてきました。今後も、防止・啓発は当室の重要な活動と位置付けられます。

また、相談しやすい環境を維持し続けることも大切です。本学が今年度から運用している「内部通報制度」の中では、新たに学外受付窓口(学外の担当弁護士)を設け、通報・相談しやすい心理的環境を拡大しています。もし、悩んでいるのであれば解決への第一歩は、「相談すること」です。プライバシーは守られます。安心して相談してください。

(キャンパス・ハラスメント対策室長 斎藤達哉)



本学では、快適に勉学

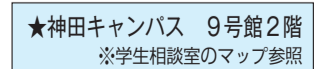
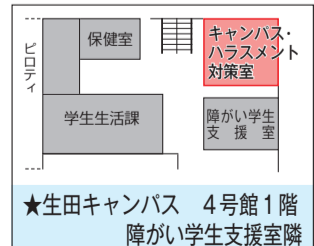
新室長に斎藤教授

キャンパス・ハラスメント対策室

キャンパス・ハラスメント対策室長に斎藤達哉教授が就任した。任期は4月1日から2025年3月まで。国際コミュニケーションの発生を未然に防

ハラスメントの相談は対策室へ

※対面での相談は予約制です



ぎ、発生した場合には適切な措置を講じる。相談の窓口として生田、神田両キャンパスに、対策室を設けている。

キャンパス・ハラスメント対策室

TEL : 044-900-7858
E-mail : camhara@acc.senshu-u.ac.jp